

レトリックの「何」「なぜ」「どのように」

1. レトリックとは何か？

(ア) 始まりは「説得術、説得の技芸」(紀元前のギリシャ)であった。

① 古代ギリシャでは、口頭で議論すること、つまり、弁論が、思想を発展させたり、広めたりする媒体であった。

② よく話すことのできる人は、良き、高き人とみなされた。話すことは説明することであり、説明できるということは、物事の理屈がわかるということ。これを大衆に対して説得的に語れるということは、社会的なリーダーとしてふさわしいとみなされた。

③ 話すことによって、自分の未来を切り開いたり、自分自身を守ったりすることができると考えられていた。

(イ) 長い間、哲学(真理の探求)とレトリック(言語の探求)の関係についての議論がなされてきた。

① 哲学とレトリックの間で、学者、思想家達が、ことばと真理の関係について議論してきた。ことばの世界と現実世界の対応、対照がしばしば問題になる。

(ウ) 現代の科学においては、ことばを中心とする様々なコミュニケーションの経験と結果(思考や行動の変化)についての探求がレトリック研究とよばれる。

2. なぜ、レトリックを学ぶのか？

(ア) 人間はことばによって、「理解」したり「表現」したりするから。

(イ) ことばによって、「社会のメンバー」となり「文化に関与」するから。

(ウ) ことばによって、「知識」を構築するから。知識を形式化(わかる形)にするのはことば。

(エ) なによりも、「力を持つことばの運用」が、「正しい理解」「力強い表現」「正しい知識」を作り出すから。つまり、レトリックが、人間の理解や表現、知識、社会文化等の源になっているから。

3. レトリックをどのように学ぶのか？

(ア) レトリックの歴史と理論を学ぶ。

(イ) 言語と論理に関する知識や理論を学ぶ。

(ウ) 関連分野：心理、認知、文学、社会・文化などにおける関連知識を学ぶ。

(エ) レトリックの知識や理論を学ぶということ = レトリカルディスコース(強い説得性が宿る言説)についての理解を深めること。理論研究。

(オ) レトリックを身につけるということ = 効果的、説得的なコミュニケーションを生み出すことができる人になること。実践研究。

4. 現代のレトリックのテーマやトピック

(ア) 政治、教育、文学、メディアなど、言語を中心媒体とし、かつ、人間の思考や行動に大きな影響を与えるディスコースが対象となる。

(イ) レトリック理論を利用した批評(物事の本質を探ったり、判断をしたりする際に、レトリック理論を通して分析する)。

イントロダクション：レトリックを学ぶ

1. レトリックと説得

- (ア) 「説得」に対しては、私達は用心深い。しかし一方で、自分のコミュニケーションによって他者になんらかの影響を与えている。意味が発生するコミュニケーションにおいては、「なんらかの影響＝広義の説得性」は常に発生している。

2. レトリックの定義

- (ア) レトリックとは、表象体系（シンボリックシステム）によって他者の感情や思考を刺激し、判断や行動に影響を与える行為である（by George Kennedy）。したがって、レトリック研究においては、シンボルが重要な研究対象となる。シンボルとは一般的な用語で、マーク、サイン、サウンド、ジェスチャーなどを指す。これらは社会的な約束事に基づいて、「意味」を発生させる。言語はひとつの巨大なシンボリックシステムである。
- (イ) レトリックの技芸（The art of Rhetoric）＝ 効果的な表象（Effective Symbolic Expression）の体系的な研究と意図的な実践（理論と実践を含む包括的な言い方）。効果的な表象とは、表象者の目的、意図を達成する表象のことである。目的は、「説得」だけではなく、美、コンセンサス、注意、賞賛、弁護等、多岐にわたる。
- (ウ) レトリック理論（Rhetorical Theory）＝ レトリックの技芸を体系的に説明したもの。レトリックの様々な働きを書き記したもの。レトリックがいかにしてそのゴールを達成するかを説明したもの。
- (エ) レトリック、レトリカルディスコース（Rhetoric, Rhetorical discourse）＝ レトリックの技芸の原理にしたがって構築された実際のディスコース。
- (オ) レイター（Rhetor）＝ レトリカルディスコースを作り上げる人、実践する人。

3. 成功するレトリックの重要な要素

- (ア) 目的を達成するために、意図的、計画的なディスコースであること。
- (イ) 特定のオーディエンスをターゲットにしていること。
- (ウ) 特定の状況に対応していること。
- (エ) 説得性を有するディスコースであること。

- ① 論理的である。
- ② 感情、情緒にアピールする。
- ③ 配列が工夫されている。
- ④ 美的、修辭的である。
- ⑤ その他

4. 批評（物事を見極める）に応用できるレトリック理論

- (ア) 説得的なディスコースを作りあげる手法を学ぶということは、様々な社会文化現象の説得性を分析することにもつながる。自分の、あるいは大衆の思考に大きな影響を与え、行動まで変化させるほど力を持つディスコースについて分析研究することによって、本質を見極める努力をすることも有意義である。
- (イ) レトリックの理論を応用して社会文化現象等を分析研究することを、レトリック批評という。

レトリックの起源と初期の歴史

1. 古代ギリシャにおけるレトリックの発生

- (ア) 弁論術（初期のレトリック）は、Sicily 島の Syracuse という場所で紀元前467年頃に始まったとされている。（Sicily 島はギリシャやスペインなど、複数の国に支配された歴史があるが、現在はイタリアの中の自治区となっている）。
- (イ) Corax というレトリシャンが、裁判における弁護の方法等を市民に教えることを申し出るとともに、Syracuse を民主的な社会にすることに貢献した。
- (ウ) Corax (*Korax*) was one of the founders of Greek rhetoric. It has sometimes been asserted that he is merely a legendary person. Corax is said to have lived in Sicily in the fifth century BC. During his time, Thrasybulus, the tyrant of Syracuse, was overthrown and a democracy formed. Corax invented an art of rhetoric to permit ordinary men to make their cases in the courts. His chief contribution was in helping structure judicial speeches into various parts: proem (序文), narration (語り), statement of arguments (議論), refutation of opposing arguments (反論), and summary (要約). This structure is the basis for all later rhetorical theory. His pupil, Tisias, is said to have developed legal rhetoric further, and he may have been the teacher of Isocrates. All we know of the work of Corax is from references made by later writers, such as Plato, Aristotle, and Cicero. (adapted mostly from Wikipedia)

2. ギリシャの民主化と説得的なディスコース

- (ア) 紀元前6～5世紀にかけて、ギリシャのアテネを中心に大きな民主化の流れが生じた（貴族政治から民主政治へ）。多くの人々が政治に加わるようになった。民主的な政治の主たる道具は説得的なスピーチである。結果としてソフィスト達がもてはやされた。
- (イ) ソフィスト (Sophist) : ソフィストとは、弁論術の実践家であり、説得的に話すことを教えることを職業とする教師達のこと。アテネ以外の場所からアテネにやってきた人たち。Corax のディスコースを基本として、アテネや他のギリシャの都市に広めたと言われている。
- (ウ) 民主的な都市 (polis=ポリス) では、弁論と討論で物事が決定される。話す事の訓練は多くの人々にとって必要だった。ソフィスト達は、説得的なディスコースの技芸の教育をアテネの市民達に提供した。
- (エ) ギリシャ人達がこのようなディスコースの理論や実践を「レトリック」と呼び始めたのは紀元前4世紀頃だと言われている。

ソフィストについて

1. レトリックの体系的な研究と実践は、ソフィストとよばれる弁論家、教育者達によって高められた。
 - (ア) ソフィスト達にとってレトリックとは、the art (Greek: *techne*) of logos である (art= 技芸、logos=ことばと議論)。つまり、「ことばと議論の技芸」であった。特に、説得術を意味した。
 - (イ) ソフィストが使っていた方法のひとつは、Dialectic (弁証法)。議論の賛成、反対、どちらにでも立つ方法論である。ある命題 (主張) について、賛成でも反対でも議論できることを発明 (発見) する技術である (現代のディベートに近い)。
 - (ウ) Dialectic では、エンドクサ (*endoxa*) とよばれる前提から議論を始める。エンドクサとは、ほとんどの人々に信じられていること、または、可能性の高いことについての命題 (言及、文) である。ある命題に対して、ひとつのエンドクサから議論を始める一方で、別のエンドクサからも議論を始める。お互いに議論を進めながら、最も適切な判断 (最終的な命題) を導き出す。このプロセスが「発見」なのである。議論がカウンター議論と出会い、議論を交換するプロセスの結果、産出された「新しい、より良い真理」に屈することとなる (もちろん理論上はという話である)。
 - (エ) Dialectic の根底にある思想は、「異なる議論、矛盾、反論等を積極的に自分の議論に受け入れ、続けることによって、強力な、より確かな命題にたどり着く事ができる」ということである。この「反する見解」のことを、*dissoi logoi* (contradictory arguments) という。
 - (オ) ギリシャ語で *kairos* という語がある。「一時的」とか「その時の状況」という意味の語である。カイロスの考え方によると、真実というのは、イベント、出来事を取り囲んでいる様々な要素、要因に依拠し、例えば、時間とか場所等の環境が、イベントについての解釈の仕方 (真実としての言及、言説) に大きな影響を与えるということになる。(現代の研究述語では、いわゆる、コンテキスト、か)。
 - (カ) つまり、ソフィストにとっては、「絶対的な真理」というのは手に入らないか、もともとないものであり、真理というのは、カイロスによって複雑にそれらしく見えるので、Dialectic の実践を通して「真理の可能性」を追求し、たどりつく命題を真理と呼ぶということが大事だったのである。
 - (キ) ソフィストはまた、「有名なスピーチ」や「典型的なモデルとなるスピーチ」を覚えることを奨励していた。そのような覚えたスピーチをベースにして、独自のスピーチを作り上げることを効果的な訓練としていた。この方法論を、*epideixis* (エピデクシス) という。
2. ソフィストにまつわる「問題」
 - (ア) 「絶対的な真理」ではなく、「相対的な真理」を追い求めるソフィストの思想と実践については、長い間、批判の対象となった。
 - (イ) ログスの実践によって生み出される「真実感、信憑性」と、ログスに頼らない絶対的な「真理」。(科学の挑戦など)。

有名なソフィスト達の技芸

1. Gorgias (ゴルギアス) のレトリック

- (ア) Leontini 生まれ (485 to 380 B.C.). Leontini の大使として Athens (アテネ) に派遣された。
- (イ) 「Poetry : 詩」の効果を最大限に発揮させるレトリックであったと言われている。Poetry の特徴とは、(1) 音のパターンを利用すること、(2) 文のパターンを利用すること、(3) スタンザを利用すること、(4) 修辭的な表現を使うこと、などがある。
- (ウ) ゴルギアスは、「説得」というのは、人々の「こころ、感情」が大きく動いて、「行動」につながる行為であり、だからこそ、「詩的な言語運用」が力を発揮すると考えていた。詩的な言語運用は、日常的な言語運用と対局にあるので、非日常的な言語運用とも考えられる。
- (エ) また、人間の精神や思考 (外からは見えないもの) に形を与えることが、詩の役割である。

2. Protagoras (プロタゴラス) のレトリック

- (ア) Abdera 生まれ。450 B.C. 頃、アテネに到着。ゴルギアスよりも20年ほど前。
- (イ) プロタゴラスが重きを置いたのは、人間による「Relative truth: 相対的な真実」をきちんと認識することであった。Kairos (カイロス) も関係することになる。
- (ウ) プロタゴラスのレトリックの訓練法で有名なのは antilogike と呼ばれるもので、どのような主張 (命題) であっても、賛成と反対 (同意と否定) の議論を発展させるトレーニングである。

3. Isocrates (イソクラテス) のレトリック

- (ア) (436-338 B.C.)。他のソフィスト達は外からアテネに入った人物達であったが、イソクラテスは、アテネ生まれであった。
- (イ) ゴルギアスやプロタゴラスからすると50年後に生誕。アリストテレスが登場する50年前になる。プラトンよりも10才、年上。
- (ウ) 390BC 頃、アテネに、最初のレトリック学校を創設した。ギリシャで最も有名、かつ、最も裕福なレトリックの先生となった。
- (エ) ゴルギアスの弟子ではあったが、「Against the Sophists」というエッセイがあるように、それまでのソフィストについては否定的な見解を持っていた。
- (オ) イソクラテスは自分で「スピーチを書いて」、それをモデルとした教育を行っていた。
- (カ) イソクラテスの関心は、自分のレトリックの教育により、ギリシャのリーダー達が、より賢く、より影響力を伴った政治的判断を行えることであった。また、お互いに説得し合う活動が、本来の民主化であるとも考えていた。
- (キ) イソクラテスの有名なスピーチ : Panegyricus, Plataeicus, Symmachicus, Areopagiticus など。英語訳がWEB上にある。<http://www.classicpersuasion.org/pw/isocrates/index.htm>

プラトンの著作 *Gorgias*

1. プラトンの問題

- (ア) プラトン (427-347 B.C.) は、自身の著作 *Gorgias* でソフィストのレトリックを非難し、*Phaedrus* で、本当のレトリックの可能性について示唆した。プラトンにとっての大きな問題は、哲学 (Philosophy) とレトリック (Rhetoric) の相違であった。
- (イ) *Gorgias* に登場する人物 : Gorgias, Socrates (プラトンの先生)、その他のソフィスト達 (Polus, Callicles)。テーマは、「政治や司法についてのレトリックの果たす役割」について。プラトンは、レトリックによって生計をたてる人 (ソフィストのような修辞教師や政治家など) を *rhetoires* (*rhetoires* / *politicians*) と呼び、非難の対象とした。
- (ウ) プラトンの疑問 : レトリックの本質 (本性) は何か？人をだますことか？レトリックは人々を謝った判断へ導くことはないか？「説得」が社会の政治や司法の基礎となるなら、社会はどうか？など。プラトンにとっては、レイター達 (修辞教師や政治家) が、説得的なディスコースによって収益を得ていること、真理ではなく「説得」が人々の判断基準になってしまうことについて、危機感や憤りを感じていたとされている。
- (エ) プラトンの主張 : 「ソフィストのレトリックとは、一般の人々の意見 (*doxa* : ドクサ : 一般常識、通説など) の操作 (ごまかし) による司法の説得を目的としている。正しい司法というのは本当の知識 (*episteme* : 正しい認識) の基づいていなければならない、個人や地域社会、街 (*polis*) の発展を目的とするべきである。」

2. ソクラテスが投げかける重要な質疑や問題

- (ア) レトリックという技芸とは何か？レトリックは、何についての学問か？ (本当の技芸、知識とは、その対象を有するはずであるという前提) : ゴルギアスの答え → Words (ことば) : *rhetoric as an art concerned with words*.
- (イ) 真の学問は、人々に何か良い結果 (影響、効果) をもたらすが、レトリックはどうか？ : ゴルギアスの答え → ことばによって他者を説得することができる (自分の自由・開放のため、他者を統治するため)。 → レトリックの技芸とは「説得的な言語使用」のこと。
- (ウ) 主題／対象が何であれ、学問や教育というのは、みんな説得的な言語使用に関わるのではないか (その学問の様々な主題／対象について語るという意味において) ? : ゴルギアスの答え → レトリックは裁判や政治的な公の場における Justice (正義や公平、正しい判断等) のための説得的な言語運用を取り扱う。
- (エ) ソクラテスの見解 : レトリックは、一般的な人々の理解や意見、つまり、ドクサを巧みに操ることによって人々を説得することを目的としているということではないのか？レトリシャンは、何が正しくて、何が間違っていることを判断できる人物ではなく、大衆の心 (意見や信念) を作り上げたり、変化させたりすることを得意とする人物ではないのか？ What is true is NOT what we think is true! By Henri Hatayama

プラトンの著作 *Phaedrus*

1. プラトンのこだわり

- (ア) プラトンの考える真のレトリック : 個々人にとって、社会にとって有益なもので、真のレトリシャンとは、オーディエンスにこびへつらう人物ではなく、真理を追求する哲学者でなければならない → プラトンのように！ (余談：でもこの強い議論を他の人々に理解してもらうためにプラトンはレトリックを使っているんだけどね - 笑)
- (イ) プラトン曰く、「説得的なスピーチの真の技芸というのは、社会に秩序をもたらすが、それは、人間の魂や人々のタイプ、ことばの力の研究によって成し遂げられる。」つまり、本当のレトリシャンとは、オーディエンスの心、精神、魂の仕組みについて良く知っているものでなければならない。

2. ソクラテスとフェドラス (*Phaedrus*)

- (ア) フェドラスはLysias というソフィストの弟子で、若いながらもレトリックを愛し、偉大な演説家、弁論家(ソフィスト)達のスピーチに魅せられていた。美貌の少年(?)だったらしく、ソクラテスはこの少年の外見と知性に恋心に近い感情を抱いていたとされる(*Phaedrus* のオープニングを読むとわかる)。結果として、この著作では、愛とレトリックが同時に語られる構成となっている。このサイトに英文がある。

<http://www.piney.com/DocPlaPhaedrus.html>

- (イ) プラトンによると、人間の心(mind)あるいは魂(soul)、(ギリシャ語では psyche)は複雑で、みつつの部分から成り立っているという。ひとつめは、WISDOM(知恵、分別、常識、学問、知識などの意味世界)。ふたつめは、NOBILITY & HONOR(気高さ、高貴さ、名誉、栄光、自尊などの意味世界)。そして最後に、APPETITES & LUSTS(欲望、欲求、渴望などの意味世界)。個々人の思考や行動は多かれ少なかれ、これらのひとつひとつの部分、他の部分を押さえ込むような葛藤の中で決められる、という理論である。
- (ウ) ソクラテスは最終的に、レトリックとは、an art of influencing the soul through words、つまり、「ことばを使って人々の心に影響を与える技芸」とした。それ以上に大事な見解として、Rhetoric is the art of leading the human soul toward truth through logoi, a Greek term that means both words and arguments. つまり、「レトリックとは、言葉と論議によって人々の心、魂、精神を真理真実へ導く技芸である」。
- (エ) 真のレトリシャンになるために : 現代語でいうと「心理」と「論法」に詳しくなければならない。様々な心理に対応する様々な議論ということ。様々なタイプに人々に対応する議論を見つけ出す技術が必要となる。

3. プラトンの望み

- (ア) 人々の心と人々の社会に秩序(Order: 日本語では、「平安」に近いかもしれない)を。

4. プラトンの議論から私たちが学ぶこと

- (ア) ディスコース(言説)は、やはり、会話(conversation)やコミュニケーションとは異なる。ディスコースは、語の選択や文の構成に細心の注意を払いながらことばを使い、議論を積み重ね、相手の魂との対話を確認しながら人間を真理に向かわせる行為で、その結果として、個々人や社会にとっての善(Good)がもたらされるという目標を持っている。

アリストテレスのレトリック

1. アリストテレス/Aristotle (384-322 B.C.)

- (ア) ギリシャの哲学者。ギリシャ北部 Stagira の出身で、アテネには367B.C.に来たとされる。レトリックの伝統の起源は467BCで、ゴルギアスの名声が427BC位なので、それから100年後ということになる。
- (イ) 言語、詩、音楽、幾何学、運動学(体育、健康)など、総合的かつ高度な知識を有する教養人であった。550冊、6000ページもの著作があるとされるが、現在までに残ったのは3分の1程度だとされる。「Rhetoric」という著作もある。ただこれは、アリストテレス本人が書いたというよりも、アリストテレスの学生達のノートがソースとなっている。
- (ウ) ソフィストのレトリック、プラトンのレトリック、どちらの問題も解決できるようなレトリックの体系を構築しようとした。

2. アリストテレスの考えるレトリックとダイアレクティック

- (ア) ダイアレクティック(真理の探究法、科学的な活動)とレトリック(技芸)を区別した。
- (イ) ダイアレクティック(Dialectic)／弁証法。主に、著作「Topics」で説明されている。
 - ① 様々な問題について討議し、ある議論を証明するための論理的な方法。広く受け入れられている命題(endoxa／エンドクサ)から、賛否の分かれる命題(controversial propositions)に向かって議論するプロセスを特徴とする。理由付けを伴いながらひたすら一貫性(すべての矛盾を排除する)を求める。したがって、古いアイデアを精査したり、新しいアイデアを発見したりすることになる。
 - ② より個人的な活動である(真理探究、学問的な活動)。ダイアレトリックのディスコースは、オーディエンスも、より専門的な知識を要する。
 - ③ ダイアレクティックは一般的な問題に取り組む(すべての人にとっての真理とは何か、みたいな)
- (ウ) レトリック。主に、著作「Rhetoric」で説明されている。
 - ① レトリックは、論理的な証明ではなく、「人格(人の特徴)や感情」を利用する。さらに、政治や司法の場において、実際の、実務的な問題を解決するための技芸である。
 - ② より一般大衆的、公的な活動である。レトリックのディスコースは、必ずしも専門的な知識を必要としない。
 - ③ レトリックは、状況的(その時、その場所、その場合)な問題に取り組む(この状況に対してどのように対処したら良いか、みたいな)
- (エ) アリストテレスによるレトリックの定義
 - ① Rhetoric is the faculty (capacity, power) of observing (discovering) in any given case the available means of persuasion. → a study of finding persuasive arguments and appeals. どのような状態／場合であっても、可能な説得の手段を見出す力、能力のこと。説得を「作り出す」んじゃなくて、説得性を「見出す」方法。

アリストテリアンレトリックの基礎

1. Techne (テクネ)としてのレトリック

(ア) アリストテレスはレトリックを Techne として位置づけた。「実践的、体系的な技芸」という意味である。ソフィストのように「偉大なスピーチを数多く覚えて、真似することの実践の中から自分なりの説得術を学ぶ」のではなく、「いかなる状況であっても、何が説得的であるかを発見する分析調査的な能力」としての技芸のこと。

(イ) レトリックの主題は「説得の手段」であると明確に謳った。これは、ダイアレクティック（弁証法）、ロジック（論理学）、ポエトリー（詩学）などの主題とは異なるという見解。ただし、当然、レトリシャンは、これらのすべての学に精通していないと成功しないでしょう。

2. 論理的な発見法の基本（アリストテレスの理論を理解するために）

(ア) 演繹 (Deduction)

- ① 演繹とは大きな命題から小さな命題を経て結論に至る方法で、3段論法がよく知られている。大前提、小前提から結論を導き出す方法で、例えば、(1) 大前提：すべての人間は命に限りがある、(2) 小前提：アリストテレスは人間である、(3) 結論：したがって、アリストテレスも死んじゃう、といった推論を行う。

(イ) 帰納 (Induction)

- ① 帰納とは、個々の事実や命題の集まりからそこに共通する性質や関係を取り出し、一般的な命題や法則を導き出すこと。例えば、田中さんはお寿司が大好き、本田さんもお寿司が大好き、佐藤さんも大好きなんだって。えっ？ひょっとしてみんな日本人？日本人がお寿司が好きなのねえ！というプロセス。ただこれ、「本当かどうか」は怪しいけど。

(ウ) アリストテレスのレトリックの演繹と帰納について

- ① Enthymeme (エンサミーム) : Syllogism (三段論法、演繹法) の一種で、Enthymeme とはレトリックにおける三段論法のこと (Rhetorical Syllogism とされている)。
- ② Paradeigma (パラディグマ) : 個別の例や少ない事例から一般化へ向かう議論のこと (Rhetorical Induction とされている)。
- ③ ただし、アリストテレスによると、レトリカルディスコースの本質は最終的にはエンサミームであるとしている。

3. アリストテレスのレトリックをより深く理解するために

(ア) レトリックの実践においては、論理的なプロセスすべてを語る必要はない。なぜなら、レイターとオーディエンスの両方に内在し、共有している信念や価値観、経験等は大前提として機能し、かつ、わざわざ口に出す必要は、特別な目的が無い限り必要ないからである。

(イ) 論理的なプロセスをそのままオーディエンスに提示するのではなく、レトリカルであるためには、オーディエンスをきちんと認識し、そのコンテキストを理解し、ディスコースの目的との整合性の中で、エンサミーム／パラディグマを運用しなければならないのである。

(ウ) レイターが持ちうる「真」と、オーディエンスが持つ「真」の中で共有しているもの、共有していないものを見極め、ディスコースを構築する。

3つのレトリックの場（アリストテレスの続き）

1. 3つの場

- (ア) アリストテレスはスピーチ（オーラルディスコース）を大きく3つのカテゴリーに分けた。
 - (1) Deliberative Oratory（議会言論）、(2) Epideictic Oratory（儀式言論）、(3) Forensic Oratory（法廷言論）、である。Oratory は弁論と訳すことが多い。
- (イ) Deliberative Oratory は主に、法的な事柄が議論される議会におけるスピーチのことで、社会が直面している様々な問題の解決に向けて行われる。Epideictic Oratory は主に、葬式や祝賀会など、冠婚葬祭は儀式的な場面でのスピーチのことで、褒めたたえたり、悲しみを共有したりするような場合に行われる。Forensic Oratory は法廷におけるスピーチのことで、告訴（accusation）と弁護（defense）のスピーチのことである。
- (ウ) 重要！：場所に関係するスピーチとして「議会言論」「儀式言論」「法廷言論」と分けられているが、スピーチのタイプとしては、「議論」「共有」「賞賛」「追悼」「非難・告訴」「弁護」などである。

2. Deliberative Oratory（議会言論）

- (ア) 政治的、政策的な議会で行われる言論。「市民、社会にとってどのようなことを行うことがもっとも有益か」に答える議論。したがって、ある政策や行為行動について「賛成」「反対」のための「確かな根拠や理由」に重きがおかれる。
- (イ) 多くの場合、「将来のこと」についての言論になり、何をなすべきかについての判断に大きな影響を与えるスピーチとなる。
- (ウ) すべて市民の（アリストテレスにとっては、アテネの人々の）至福、満足が一般的な目標となる。
- (エ) 現代的に言えば、この言論こそが、「お金、時間、労力等＝リソース」を費やして行うべき事を決定する重要な役割を果たす。オーディエンスの思考、将来のあるべき姿、適切なリソースの運用等がすべて合致しなければならない。

3. Epideictic Oratory（儀式言論）

- (ア) 公の儀式の場（葬儀、祝祭、記念、入卒業など）での言論。賞賛（praise）や非難（blame）を向ける対象を取り扱う。美德（Virtue）や不道德（Vice）、善良や悪徳のスピーチである。
- (イ) 儀式言論は、例えば、市民の正しい言動や勇氣、誠実、道徳などを高める役割を果たす。
- (ウ) スポーツマンシップや武士道、国家国民論なんかはこの部類に入る。

4. Forensic Oratory（法廷言論）

- (ア) 法廷における公正、公平を取り扱う言論。告訴（accusation）と弁護（defense）。
- (イ) 特に「過去の事」についてことばで再構築する言論になる。したがって、実際の証言や証拠、根拠等が必要になる。起こった事の仮説を証明する必要性が生じる。
- (ウ) 法廷言論は、何が正しくて、何が間違っているのか、何が良くて、何が悪いのか、などの基準で、人々が引き起こす言動を判断し、もし罪があるとする、どのような罰、更生が適切かについて答えるスピーチとなる。

レトリックはアート（技芸）として「何を創るか」？

1. 「アート」(art, that is, *techné*) としてのレトリック

- (ア) レトリックはアートとして何を教えてくれるのか？レトリックの学生は何を学ぶのか？アリストテレスは、技芸としてのレトリックが造り出す3つのこと（The Artistic Proofs という）について説明している（この場合の proof は証明ではなく、技芸によって創りだされる作品とか品物という意味に近い。「作品という実体」は「芸術という概念」の「認知できる証拠・証明」だからね）。
- (イ) 3つのプルーフとは、(1) ロゴス (logos) : 論理的な理由づけ、(2) パトス (pathos) : 人間の様々な感情の名称や原因、(3) エトス (ethos) : 人の人格や善良さ、である。これらを人々の「心の中に創造し」、説得へ向かわせる。

2. ロゴス (logos) : 理にかなった命題（主張）の論理

- (ア) ロゴスはギリシャ語の世界では複数の意味を有する。語、表現された思考、議論、ディスコースなど。さらに、そこにはことばの使用を中心とする知的、合理的な活動の意味合いを含む。
- (イ) 論理的なディスコース、つまり、文中の語と語の関係の論理性、文と文の関係の論理性、セクションとセクションの関係の論理性が重視され、このことを Reasoning（理由付け、理詰めを伴うディスコース）と呼んでいる。
- (ウ) ただし、アリストテレスは一般の人々が意思決定を行う場合の論理、理由付けも重大な関心ごとで、これは、論理学者や弁証法研究者が行う正式な、本格的な論理とは区別した。つまり、ロゴスは「日常的な実際の場面で利用される論理的な議論の研究」であった。

3. パトス (pathos) : 感情の心理学

- (ア) 人々の心を操作することには批判的な見解は持ちつつも、人の感情の研究はレトリックの体系的な構築には不可欠であった。
- (イ) パトスの定義として、「オーディエンスをあるべき、正しい心のあり方の枠組みに持って行くこと」とした。さらに、感情的なアピールは、説得的なメッセージに力を与え、オーディエンスをアクションに導くものとした。ただし、アリストテレスが最も関心を抱いたのは、「オーディエンスの判断に大きく影響を与える感情の力」であった。
- (ウ) パトスの研究は、感情の研究であるが、特に、真理を発見し、真理に基づいて行動する倫理性を伴った情熱 (strong beliefs and feelings) の研究であった。
- (エ) アリストテレスは私たちが経験する感情のすべてについて分析しようとした。怒りや恐れ、恥、哀れみなどで、どの感情とどの感情が対局にあるか、どのように種別できるか、考察した。
- (オ) 心理学に近く、まず、(1) 人の物事に対する感情的な反応を理解し、(2) レトリカルディスコースで言論されている問題の本質にフィットするように調整することが大事であった。

ロゴス、パトス、エトス（011からの続き）とトピック

1. エトス (ethos) : キャラクター。人格や善良さの力

(ア) Rhetor (話し手) の人格や信用が、説得性に大きな影響を与える。これをエトスという。

アリストテレスによると、スピーチの中でエトスを構築するには、3つの部分が大事であるとした。

① Phronesis (intelligence, good sense) : 知性やセンスの良さ、物知り

② Arete(virtue) : 美德、善良、高潔

③ Eunoia (goodwill) : 好意、親善、親しみやすさ

(イ) アリストテレスはエトスを「社会学的に」とらえた。つまり、「社会にとって信用される人物」ということ。様々な異なる社会があるので、その社会によってのエトスは異なることになる。

(ウ) さらに、エトスは、他の要素、例えば、若者、老人、男性、女性、または、裕福、権力、生まれ、などと関係があることも知らなければならぬとした。

2. トポス (topos) について (複数形は topoi、英語では topic と訳される)

(ア) トポスのもともとの意味は「場所」であり、その結果、「議論の場所」とか「議論の筋、とか議論のタイプ=その場所にふさわしい適切な議論」などの意味としてとらえられている。

(イ) 特別なトピック

① ひとつの分野についての深い知識や経験を要するトピック。例えば、金融、国防、貿易、法律など。特に、「人々の幸福、良い人生」を念頭においた議論を行う際に必要となる知識。人にとって有益か無益か、賢明か愚劣か、などの判断を行うための知識。

(ウ) 普通の (普遍的な) トピック

① どのようなディスコースにも使えそうなトピック、知識、議論。例えば「反対概念」や「概念と概念の関係」などを駆使した議論の構築。(例1) : 平和は経済的な競争 (=敵) を生み出す。したがって、繁栄のためには戦争が必要である。(戦争→平和→経済→繁栄→戦争、、、) (例2) : 誰かが「くれた」のであれば、あなたは「もらった」のでしょうか。「売った」のであれば、「買った」んでしょう？

② 議論に「余地」があるようなことば。つまり、プラスとマイナスを含有しているようなことばを利用した議論。(例) あいつに騙された！あいつ、結婚詐欺師だったのよ！→「騙された」のは事実かもしれないが、騙されていることを気づくまでは幸せだったんですよ？だから騙した人を非難できないでしょ。だって、気づくまでは非難しようとしなかったでしょう。

3. スタイル (style)

(ア) ことばの使い方は、場面に応じて「適切」でなければならない。

① 明解であること！ : 使われる語句、一般的な語句を利用して解りやすくすること。

② 自然さは説得的である！

③ 難解な概念は比喻で表す！ : わかりやすい物事に例えて話すこと。

ローマにおけるレトリック（１）：キケロ

1. ギリシャからローマへ

(ア) ギリシャで育ったレトリックはローマで「自由教養教育」として根付いた。その理由は、

- ① レトリックは政治的な事項について成功を収める手段であるから。
- ② レトリックは様々な社会的議論を指揮、先導する方法を提供するから。
- ③ レトリックは知見や教養を表現する技術を高めてくれるから。
- ④ つまり、ローマ社会で重要な役割を果たす人になるために、レトリックに長けてなければならなかったということ。

(イ) ローマのレトリシャンとして有名なのは、キケロ (Cicero : 106-43 B.C.) と、クインティリアヌス (Quintilian: A.D. 35-100)

2. キケロのレトリック理論

(ア) Marcus Tullius Cicero. 106 B.C. 1月3日生まれ。43 B.C. 12月没。キケロが書いた有名な本は *De Inventione* と *Rhetoric ad Herennium* で 85B.C. 頃書かれたと言われている。

3. De Inventione

(ア) キケロが19才位の時に書いた本。ローマ共和国でレトリックがどのように教えられたかについて書かれている。

(イ) レトリックのキャノン(規範、基準) : The Five Canons of Rhetoric

- ① 弁論家 (orator) のディスコースを5つの部分に分けて、それぞれの本質や機能を研究し、全体のディスコースに戻すことで、レトリカルなディスコースを構築できると考えた。「Invention」「Arrangement」「Expression」「Memory」「Delivery」の5つ。
- ② Invention (発見) : 有効な議論を発見する。
- ③ Arrangement (配列) : 複数の議論を、効果的なディスコースになるように、適切な順番に並べる。
- ④ Expression (表現) : 適切なことばを選ぶ。表現をディスコースにフィットさせる。
- ⑤ Memory (記憶) : ディスコースの内容とことばを記憶する。
- ⑥ Delivery (表出) : 声や体、態度、ジェスチャー等のコントロール。ディスコースの主題やスタイルにフィットさせる。

(ウ) ステーシスとトピックの方法論について

- ① Stasis (struggle or stopping point of argument) : 議論の分かれ道、議論が止まるどころ、の意味。
 1. 事実を捉える時に、それとして同意できるか。何が、いつ、どこで、だれが、どうした。 → Issues of Facts
 2. 定義についての同意。事実を「どのように、何として」捉えるべきか。 → Issues of Definition
 3. 質についての同意。事実はその定義に照らし合わせて、どの程度のものか? → Issues of Quality
 4. それについてとるべき行為のプロセスについての同意。誰が、誰に、何を、どのように、どの程度、行うべきか。 → Issues of Procedure

ローマにおけるレトリック（１）の続き

② Topical System（トピカと呼ばれる）

1. トピックはギリシャ語の topos からきている。複数形は topoi。place を意味する。
2. 言論者（orator）が長いスピーチを覚えるために用いられた手法だった。弁士は自分のスピーチの中の様々な議論（トピック）をそれぞれ自分が良く知っている建物に入れていく。実際のスピーチで、議論を思い起こす時に、建物を歩いて訪れるように話す方法。
3. この「建物に議論を入れて長いスピーチを覚える」という作業が、「建物への入れ方」という考え方に発展し、やがて、「カテゴリーで考える」ことにつながった。→ 議論をカテゴリーで整理する。

4. ローマにおけるトピック論の元（リソース）は、ギリシャのレトリシャン、Hermagoras

（ア）ローマ人の著作の中に、Hermagoras の理論が書き記されている。様々な事例に対応するために、3つの問題に分けて考える方法を紹介している。

- ① Conjectural Issue（推測する問題）：事実を客観的にとらえる問い。何が起こったか？
- ② Legal Issue（法的な問題）：解釈の問い。どう解釈すべきか、どのようにとらえるか？
- ③ Juridical Issue（裁判の問題）：正しいか間違いかを判断する問い。

（イ）Hermagoras のもうひとつの理論

- ① 議論を Thesis と Hypothesis に分けた。
- ② Thesis：普遍性のある一般的な根拠や前提、論。命題。例「たとえ親友であっても同じ人を愛すると敵になってもおかしくない」
- ③ Hypothesis：ある事例に Thesis を適用した場合の予想される結論。例「裕司と信也は中学以来の親友だけど、ふたりとも真矢を好きになっちゃったから気まづくなってるハズだよ。」

5. キケロのその他の理論

（ア）オーディエンスを中心としたディスコースの研究

（イ）オレーター（orator：言論を行う者、弁士、スピーカー、演説者）の資質

- ① 多岐にわたり知識を有する教養ある人物であるべき。
- ② 詩や文芸を始めとする芸術に精通するべき。
- ③ 哲学思想は不可欠。
- ④ 自分なりのディスコーススタイルを確立するべき。
- ⑤ 心理、感情を理解すること。

（ウ）ユーモアの研究

- ① ふたつのタイプに分けた。ひとつは、事実に基づくもの、もうひとつは語句に基づくものの。
- ② 事実：おもしろい「話」をする、または、良く知られている物事や人を真似するなど。
- ③ 語句：似たような音だが異なる語を発する、または、同じ音であるが、違う意味の語として発するなど。

ローマにおけるレトリック（２）：クインティリアヌス

1. Marcus Fabius Quintilianus (A.D. 35 - 100) 英語では、Quintilian と綴る。レトリックの先生として有名。*Institutes of Oratory* という著作があり、これは、レトリックの A-Z 教科書と言える。

2. レトリックと善良な市民

- (ア) 「良く話することができる市民」を育てようとした。単に上手にという意味ではなく、いわゆる善良に話すということ。

<http://www.mmdtkw.org/05-01QuintilianCicero.jpg>

3. クインティリアヌスのレトリック論

(ア) 2つの種類の疑問（質問）

- ① Indefinite questions（不定の疑問）：明確な人や時間、場所、その他個別の物事に言及しないディスカッションのこと。
- ② Definite questions（明確な疑問）：明確な個人や事実、場所、時間などについて言及するディスカッションのこと。

(イ) Bases 理論

- ① Existence：何がおこったか、事実の把握。
- ② Definition：どのカテゴリーのイベントとして取り扱うべきか。
- ③ Quality：そのイベントの深刻さ、質。どの程度のこととして取り扱うべき。

(ウ) Loci：一定の思考の癖（パターン）を身につけるためのもの

- ① ひとつのアクトの前に何がおこってきたか
- ② そのアクトの中では何がおこったか
- ③ そのアクトを取り巻く状況はどうであったか
- ④ そのアクトの後、どのようなことがおこったか

(エ) The Parts of Judicial Speech（司法、裁判的スピーチ：ジャッジの構成要素）

- ① Exordium (Introduction)：オーディエンスがスピーチを聞くようにデザインされたイントロダクション
- ② Narratio (Narration)：そのイベントを理解するための事実の描写と本質的な問いの表明
- ③ Confirmatio (Proof)：証明。主張を裏付ける証拠や理由。
- ④ Confutatio (refutation)：反論についての答えの提示。
- ⑤ Peroratio (Conclusion)：イベントについてポイントを整理、強調した提示。まとめ。